

山陽小野田市教育委員会教育長賞

「今からできることを」

山陽小野田市立竜王中学校 2年 たなか田中 りくと陸渡

あなたは日頃から防災について、何か準備をしているだろうか。火事や台風、地震など世の中ではたくさんの災害が起きている。テレビやインターネットで目にする災害は、とても悲惨で心が痛む。しかし、やはりどこか他人事のように考えているのではないだろうか。僕もその1人だった。

僕は今年の夏休み、家族で鹿児島県の桜島へ行った。そこで黒神埋没鳥居を訪れた後、何気なく入った退避豪で目にした、たくさんの新聞記事や防災に関するポスターを見て、衝撃を受けた。そこには、黒神中学校の生徒達の記事や桜島の噴火の歴史、黒神防災マップなどが詳しく書いてあった。読み進めると、その記事には黒神中学校の生徒が4人しかいないことがわかった。少ない人数にも関わらず防災教育に力を入れ、自分の命を守るだけでなく、地域の高齢者や外国人観光客の避難誘導も含めた取組が評価されていた。僕は、こんなにも少ない人数でも、いつ起きてもおかしくない桜島の噴火に備え、火山の最前線で生きる自覚をもっている彼らを誇らしく思った。それと同時に、僕自身も深く考えさせられた。僕は日頃からもしものときに備え、何か準備をしているのだろうか。学校での引き渡し訓練は、真剣に取り組んでいるのだろうか。きっと真剣に向き合えていないだろう。では何が、僕らと彼らで違うのだろうか考えた。それは危機意識ではないかと思う。彼らには身近に桜島という活火山があ

り、昔から噴火を繰り返し、その被害を体験しているからだろう。過去の被害からたくさんことを学び、噴火を想定して常に訓練し、そこに満足せず桜島全体が一丸となって、防災体制の強化を続けてきた結果だろう。地域の方々と声を掛け合い、命が助かるように行動する桜島の人達は、本当に素晴らしいと感動した。僕は退避豪の中で最も印象に残った言葉がある。それは、黒神中学校避難の心得新五カ条だ。1、自分の命は自分で守れ。2、慌てず落ち着いて行動する。3、油断禁物。4、忘れ物をしても取りに帰らない。5、日頃からの準備を怠らない。この言葉には、どこか説得力がある。中でも、忘れ物をしても取りに帰らないという言葉は、よく災害時に忘れ物を取りに引き返して、危険にさらされたと耳にしたことがある。とても大切なことだと感じた。

この夏、僕は桜島を訪れて本当によかった。ここに来なければ、僕の防災意識は低いままだった。しかし、桜島で日頃から危機意識をもつ大切さ、油断から始まる危険を学んだ。災害をどこか他人事のように考えていたが、僕の意識はすっかり変わり、自分事としてとらえ、もしものときに備えて僕のできる防災を今から始めたい。

